

議事要旨(3) 第3回会計基準アドバイザー・フォーラム (ASAF) の報告

小賀坂副委員長より、第3回ASAF会議の内容について、説明資料[審議事項(3)]に基づき同会議の概要の説明がなされ、引き続き、同資料に基づき、主に、ASBJが作成した概念フレームワーク（純損益/OCI及び測定）のアジェンダ・ペーパーに関する議論についての詳細な説明がなされた。

説明に対する委員からの主な意見と、それらに対する事務局からのコメントは次のとおりである。

- ある委員より、概念フレームワーク（純損益/OCI 及び測定）に関する議論について、次のような質問がなされた。
 - 「純損益にソフトな数値が入ってしまうことを回避するために再評価差額を即時認識しないというのは分かるが、財務業績の表示にとってソフトな数値ということであれば財政状態の表示にとってもソフトな数値になってしまうため、信頼性に欠けているということになるのではないか」という IASB 関係者のコメントは、どのようなことを意図しているのか。
- これに対して事務局より、次のような回答がなされた。
 - ASBJ の主張では、財政状態計算書と損益計算書の測定属性を別々に考えるということであるが、一方、IASB の考えでは、測定属性を考える上では、財政状態計算書と損益計算書の両面から最適な測定属性を決定するということである。当該 IASB 関係者のコメントの厳密な意図については分かりかねるが、損益計算書の測定属性をメインに考えてしまうと、全体として客観性に欠ける数値が入ってしまう可能性があるということを意図しているのではないかと考えられる。
- ある委員より、概念フレームワーク（純損益/OCI 及び測定）に関する議論について、次のような質問がなされた。
 - ASBJ が提案している「純損益は、ある期間における企業の事業活動に関する不可欠な成果についての包括的な測定値を表す」という純損益の特徴に関して、「不可逆」という点も含めて、どのような議論がなされたか。
- これに対して事務局より、次のような回答がなされた。
 - 今回の議論においては、ASBJ の提案が狭い実現の概念ではないことについて理解がなされた。ASBJ からは、不可逆という点に関して、例えば、減損の戻入れや引当金を積み増すときについても説明が可能であるということを主張した一方、他の参加者からは、不可逆という点を用いてすべて説明できるのかということについて特に主張がなされた。
- ある委員より、概念フレームワーク（純損益/OCI 及び測定）に関する議論について、

次のような質問がなされた。

- ▶ 資料に記載されている「より精緻な定義が特定できない限り、純損益について定義することを躊躇するし、個人的には純損益を精緻に定義することができるとは思わない」との IASB 関係者のコメントでは、純損益を定義できない場合には、純損益をなくすことを意図しているのか、または、別のアプローチをとることを意図しているのか。
- ▶ 純損益を定義できない場合には、OCI を明確に定義できないと思われる。純損益と OCI の両者を定義できない場合、純損益と OCI との区分はどのようになると考えられるか。
- これに対して事務局より、次のような回答がなされた。
 - ▶ 当該 IASB 関係者は、純損益については世界中からニーズがあり、純損益を残すべきであるということを以前から主張しており、純損益をなくすことを意図しているわけではないと考えられる。
 - ▶ 純損益と OCI の両者を定義できない場合には、IASB のディスカッション・ペーパー「財務報告に関する概念フレームワークの見直し」（以下、「DP」）の純損益とリサイクリングに対するアプローチ 2B のように、OCI への認識に適格となる 3 つの項目グループを説明するだけになるのではないかと考えている。なお、OCI を説明するのが困難であるから、純損益をなくすという帰結にはならないのではないかと考えている。
- ある委員より、概念フレームワーク（純損益／OCI 及び測定）に関する議論について、次のような質問がなされた。
 - ▶ 純損益の概念をなくすという主張もあるが、個人的には純損益を定義すべきであると考えている。仮に純損益をうまく定義できない場合、OCI 項目をすべてリサイクルすべきであるという主張にどのような影響があるか。
- これに対して事務局より、次のような回答がなされた。
 - ▶ ASBJ は、OCI 項目をすべてリサイクルする案を主張している。IASB の DP の純損益とリサイクリングに対するアプローチ 2A であれば、ASBJ の案と同様の結果をもたらすかもしれないが、IASB の案ではもともと OCI に認識される項目が非常に少ないという点が ASBJ の案とは異なる。
- ある委員より、概念フレームワーク（純損益／OCI 及び測定）に関する議論について、次のような質問がなされた。
 - ▶ 資料に「財務業績を定義しなければ、どういう場合にどの測定基礎を使用すべきか決定できないのではないか」との IASB 関係者のコメントがあるが、その IASB 関係者は財務業績の定義は可能であると考えているのか。また、IASB では財務業

績を定義する取組みはなされているのか。

- これに対して事務局より、次のような回答がなされた。
 - その IASB 関係者のコメントの趣旨は、財務業績を定義できないから、使用すべき測定基礎を決められないということと考えられる。財務業績を定義するのは純損益を定義するより難しいと考えられ、IASB において財務業績を定義する取組みがなされているとは認識していない。
- ある委員より、リースに関する議論について、次のような質問がなされた。
 - ASAF の参加メンバーより、リース・プロジェクトの今後の方向性について参考となるような発言はあったか。
- これに対して事務局より、次のような回答がなされた。
 - リース・プロジェクトの今後の方向性について参考となるような発言があったとは認識していない。

以 上